

中村太士農学研究院教授に紫綬褒章

春の叙勲に本学から1氏

構内初の新感覚コンビニエンスストアオープン発表と株式会社セコマとの
「地域創生連携協定」締結

お知らせ

・北海道地区福祉共同事業契約宿泊施設の開設



■ 全学ニュース

- 1 中村太士農学研究院教授に紫綬褒章
- 3 春の叙勲に本学から1氏
- 5 構内初の新感覚コンビニエンスストアオープン発表と株式会社セコマとの「地域創生連携協定」締結
- 6 北海道大学ディスティングイッシュトプロフェッサー称号授与式を挙行
- 7 名和総長がロシア大学学長会議総会に出席
- 8 北大フロンティア基金
- 10 北大フロンティア基金『北大みらい投資プログラム』の創設
- 11 「北海道大学短期留学プログラム(HUSTEP)」,「日本語・日本文化研修コース(日研コース)」及び「日本語研修コース」入学式を挙行
- 12 北海道大学私費外国人留学生特待プログラム留学生採用証書授与式を挙行

■ 部局ニュース

- 13 ベトナム・ホーチミン市長を団長とする視察団が農学研究院ビークルロボティクス研究室の農業用ロボットトラクタを視察
- 14 第43回時計台サロン イグ・ノーベル賞受賞記念講演会を道新ホールで開催
- 15 薬学部で新入生歓迎会を開催
- 15 平成30年度薬学実務実習開始セレモニーを挙行
- 16 環境科学院及び文学研究科による「北大道新アカデミー」への協力
- 18 工学研究院で寄附分野「地域防災学分野」の開設式を挙行
- 19 脳科学研究教育センター発達脳科学専攻の開講式を挙行
- 20 総合博物館で写真パネル展「シマエナガさんの12ヶ月」を開催



北海道大学ディスティングイッシュトプロフェッサー称号授与式



ロシア大学学長会議総会

- 21 国際広報メディア・観光学院で履修証明プログラム「デスティネーション・マネージャー育成プログラム」開講式を開催
- 22 物質科学リーディングプログラム(ALP)がタイ国立遺伝子生命工学研究センターで海外サマーキャンプを開催

■ お知らせ

- 23 北海道地区福祉共同事業契約宿泊施設の開設

■ 諸会議の開催状況 25

■ 学内規程 26

■ 研修 27

■ 表敬訪問 28

■ 人事 29

- 29 新任教授紹介

■ 訃報

- 30 名誉教授 入江 敏博 氏
- 31 財務部長 松本 歩 氏

■ 資料

- 32 役職員数(平成30年5月1日現在)



農学研究院
農業用ロボットトラクタ視察



環境科学院・文学研究科
「北大道新アカデミー」への協力



工学研究院
「地域防災学分野」開設式



脳科学研究教育センター
発達脳科学専攻開講式

中村太士農学研究院教授に紫綬褒章

この度、農学研究院教授の中村太士氏が紫綬褒章を受章しました。

同氏の長年にわたる教育・研究、特に生態系管理学、森林学、地形学、生態学に関する一連の優れた業績と我が国の学術振興の発展に寄与された功績に対し、授与されたものです。

同氏の受章にあたっての感想、功績等を紹介します。

(総務企画部広報課)



なかむら ふとし
中村 太士 氏

感 想

この度は、春の褒章で紫綬褒章の荣誉に浴し、身に余る光栄であると同時に、これまで私の研究・教育活動を支えてくれた大学の恩

師、同僚、学生たち、大学事務の皆様、行政・企業の皆様、そして家族に、心から感謝申し上げます。これまで本当にありがとうございました。

私は、中学生の頃から北海道に憧れ、北海道大学に進学することを決めていました。その時代、北海道大学は理類として一括で入学が許され、その後1年程度悩んだ末、進路を決めることができました。私もどんな道に進むべきか大いに悩んだ学生の一人で、当初、数物系が好きだった私は工学部に行こうと考えていたのですが、周りの友人の話聞いて、クラーク博士の農学部に進路を変更しました。

その後、林学科の砂防学研究室に入り、恩師である東三郎先生と、新谷 融先生に会うことができました。その当時、まさか自分が教員になるとは思っていなかったのですが、縁あって助手として拾ってもらい、その後米国オレゴン州にある北太平洋森林科学研究所に2年間留学する機会を得ました。この経験は、私の研究者人生に大きな影響を及ぼし、自分が「井の中の蛙」であったことを痛切に感じました。

日本に戻ってきて、オレゴンでの経験をもとに、これまでの砂防学とは異なり、どちらかという生態学に軸足を置いた研究に着手しました。東・新谷両先生が教えてくれた土地やその変動を観る見方をベースに、生物の生活史ステージごとの生息場環境の形成機構に取り組み、森と川のつながりなど、生態系間の相互作用に興味を抱くようになりました。教授に昇任すると同時に、砂防学研究室から森林施業計画学研究室に移り、研究室名も森林生態系管理学と変え、森林資源や野生動物を含む生態系管理、資源利用と保全計画の両立、劣化した生態系の復元を目指した研究に発展させるべく、多くのプロジェクトを企画し実施し

てまいりました。

1990年代は社会も生産効率の追求から環境保全や再生へと大きく舵をきり、新河川法、環境影響評価法、自然再生推進法など、それを実現する法整備も進みました。そんな中で、自身の研究成果を現場に生かす機会が与えられ、北海道を代表する自然である釧路湿原と知床において、人によって劣化した自然環境を復元する仕事を行政とともに実施することができました。

私の研究分野はフィールド科学であり、一人では何もできません。今回の受章は、研究室の学生、卒業生たちと協働で行ってきた研究成果が認められたものであり、その代表として私は受章することができました。その意味でも、同窓生には感謝の念に堪えません。憧れた北海道と北海道大学での仕事が認められたことを誇りに、一現役教員としてこの章の名に恥じぬように精進して参りたいと思います。皆様には、今後ともご指導のほど、よろしくお願い申し上げます。

功績等

中村太士氏は、昭和56年3月北海道大学農学部を卒業、昭和58年3月同大学大学院農学研究科修士課程を修了し、昭和59年4月北海道大学農学部助手、平成元年8月同講師、平成4年同助教授を経て、平成12年8月北海道大学農学部教授に昇任され、平成18年4月農学研究科の改組に伴い北海道大学農学研究院教授となりました。現在は基盤研究部門森林科学分野に所属され、生態系管理学を専門として、教育・研究活動にご活躍されています。

同氏は、永年にわたって、生態系管理学、森林学、地形学、生態学の教育、研究に努め、社会的にも自然環境の保全と管理に大きく貢献されています。森林、河川、湿地等のさまざまな生態系で構成される流域に焦点を当てて研究を行い、洪水や山崩れなどの地表変動攪乱は、生態系の維持機構として重要な役割を果たしていることを明らかにするとともに、流域内の生態系の相互作用を解明しました。さらに、生物種と生息環境を基準にした生態系評価と復元の方法を確立したことで、これが日本の森林、河川、湿地の管理指針として定着するなど、斯学の発展に多大な貢献

をされました。

それまで、野外科学研究者の多くは、水文・地形などの物理現象か、森林動態などの生物現象のどちらか、そして一つの生態系内の現象解明に絞って研究を行ってきました。これに対して、同氏は、物理現象と生物現象のつながり、そして森林と河川の相互作用系など、複数の生態系間のつながりに着目し、一貫して森林・河川・湿地・湖沼を含めた流域生態系の保全と管理の問題に焦点をあてて研究を行い、世界的にも注目される先駆的成果を挙げてくれました。

そして、現実の河川・湿地における自然再生事業にかかわり、北海道を特徴づける蛇行河川ならびに湿地の生態学的機能を、水辺林、河川底生動物、魚類の視点から明らかにされました。さらに、これら河川生物相を保全するために必要な生育・生息場所環境を直接環境傾度分析によって明らかにされました。また、河川生物相の保全にあたっては、生息場所を動的に形成（破壊）する攪乱を許容することの重要性を唱え、自然攪乱の模倣と順応的管理に代表される生態系管理の基本的な考え方を示されました。これにより、平成24年4月には、「みどりの学術賞」を受賞されています。

近年は、景観生態学と生態系管理学を融合させ、生態系の連結性と生物多様性の関係を、魚類、鳥類、水生・陸生昆虫、哺乳類等、様々な分類群について明らかにし、将来シナリオにもとづく保全戦略を提言されています。こうした成果は、人口減少、気候変動下の生物多様性保全、生態系機能の維持に重要な示唆を与えるものであり、同氏は日本の生物多様性及び生態系サービスの総合評価、その地図化などにも大きく貢献されています。

略 歴

生 年 月 日 昭和33年11月11日
昭和59年4月 北海道大学農学部助手
平成元年8月 北海道大学農学部講師
平成4年8月 北海道大学農学部助教授
平成12年8月 北海道大学大学院農学研究科教授
平成18年4月 北海道大学大学院農学研究院教授（現職）

（農学院・農学研究院・農学部）

春の叙勲に本学から1氏

この度、本学関係者の次の1氏が、平成30年春の叙勲を受けることについて、4月29日（日）に発表となりました。

勲章	経歴	氏名
瑞宝単光章	元 北海道大学病院看護師長	渋谷 かをり

同氏の長年にわたる教育・研究等への功績と我が国の学術振興の発展に寄与された功績に対し、授与されたものです。
同氏の受章にあたっての感想、功績等を紹介します。

（総務企画部広報課）



しぶや
渋谷 かをり 氏

感想

この度、叙勲の栄誉を賜り身に余る光栄と感激いたしております。これもひとえに多くの皆様のご指導ご支援の賜物と心から感謝

し、御礼申し上げます。

私は、昭和53年4月北海道大学病院に就職して以来、平成29年3月の定年退職まで39年間勤務させていただきました。

最初の配属は皮膚科・形成外科混合病棟の形成外科チームでした。主な疾患として先天性奇形、熱傷、皮膚がんなどで、患者さんやご家族を通して身体的ケアだけでなく心のケアの重要性を学ぶことができました。また当時は各チーム1人夜勤で、就職して数か月経過した夜勤勤務時に、熱傷患者が緊急搬送され不安と怖さを感じながら無我夢中で勤務したことを鮮明に覚えています。今思えばこのような厳しい状況の中で、看護師としての責任と覚悟が芽生えたように思います。

その後、第一外科、小児科、第三内科を経て、平成4年に第三内科で副看護師長となり第一外科、手術部で勤務しました。第一外科では臓器移植法案成立後、当院での肝臓移植を前提に、米国ピッツバーグ大学メディカルセンターへの研修に参加させていただきました。研修後は移植マニュアル、クリニカルパスの作成、スタッフ教育、関連部署との連携体制の整備など様々な課題に取り組み、肝臓移植の基礎づくりに関わったことは貴重な体験となりました。またアメリカでの移植医療の実際に触れる機会を得たことを通して、臓器移植における看護師の役割を学んだだけでなく、その後の看護観や倫理観に大きな影響を受けました。

平成15年には看護師長となり皮膚科・形成外科・スポーツ医学診療科病棟、手術部、医療安全管理部で勤務しました。初めの部署では病棟再編の方針が打ち出され、新たな

患者の受け入れ準備として、看護師の短期院内留学等を実施し看護の質担保に取り組みました。手術部では手術器械のコンテナ化、手術器械洗浄の中央材料部への移行体制の構築、手術材料物品のSPD管理の導入などを行い手術業務の改革に貢献することができたと思います。このような取り組みができたのは、副看護師長はじめスタッフの大きなサポートのおかげと思っています。

その後は医療安全管理部へ異動となり、GRM（ゼネラルリスクマネジャー）として、リスクマネジメントの重要性を再認識し患者・医療者の安全を考える上で重要な視点を得ることができました。最後は皮膚科・形成外科・放射線治療科へ異動となり、看護師長として直接患者看護に関わり充実した2年間を過ごすことができました。

北海道大学病院での39年間の看護師生活を振り返ると、諸先輩・同僚・後輩・他職種など様々な方々にご指導・ご支援いただいたこと、そして多くの患者さんから学ばせていただいたことは感謝しても尽きません。

今後はこの栄誉に恥じる事が無いよう過ごしてまいりたいと思います。

最後になりますが、北海道大学、北海道大学病院、看護部の発展をご祈念申し上げ、お礼の言葉と致します。

功績等

渋谷かをり氏は、昭和31年7月31日に北海道登別市に生まれ、同53年3月に東海大学医療技術短期大学第一看護学科を卒業され、同年4月に北海道大学医学部附属病院に採用、平成4年副看護婦長、同15年看護師長を歴任、同29年3月に北海道大学病院を定年にて退職されました。

同氏は当初、皮膚科・形成外科病棟、第一外科病棟、小児科病棟、第三内科病棟で勤務され、副看護婦長昇任後は、第三内科病棟、第一外科病棟、手術部で勤務されました。この間、スタッフ指導等に率先して取組み、看護実践のリーダーシップを発揮されました。

その後、看護師長に昇任、皮膚科・形成外科・スポーツ医学診療科病棟では、病床再編に伴い積極的に部署間研修を実施するとともに、国公私立大学病院看護管理者研修を

受講し、看護管理能力の研鑽に努められました。

手術部では、手術看護の指導・教育体制の見直し、患者参加型看護の推進を通して安心で良質な手術看護の提供に取り組まれ、また、業務改善やコスト削減等を通して病院の経営改善に貢献されました。

医療安全管理部では、ゼネラルリスクマネジャーとして病院全体の医療安全の質向上に取り組まれました。平成23年の日本看護学会看護管理において「看護職の経験年数とインシデント内容の関連－7年間約13,000件のインシデントレポートから見えてきたこと－」を報告、また、平成25年には「転倒・転落防止対策および対応に関する看護師の意識調査」を雑誌「臨床看護」に投稿されました。

皮膚科・形成外科・放射線治療科病棟では、教育体制を整備し、部署全体で新人看護師を育てるチーム作りに尽力されるとともに、平成27年の医療の質・安全学会において「1～2年目看護師の内服薬インシデントを防止するための教育－シミュレーション教育の効果－」を発表されました。

同氏は、社会貢献活動も積極的に行い、日本手術看護学会の理事や北海道地区の副会長・会長、北海道医療安全研究会幹事等を歴任、北海道看護協会では、第4支部副支部長、推薦委員を務められました。

以上のように同氏は、39年の永きに亘り看護管理、継続教育、医療安全を主として看護の質向上に尽力し、その功績は誠に顕著であります。

略 歴

生 年 月 日	昭和31年 7 月31日
昭和53年 4 月	北海道大学医学部附属病院看護部
平成 4 年 4 月	北海道大学医学部附属病院看護部副看護婦長
平成15年 4 月	北海道大学医学部附属病院看護部看護師長
平成15年10月	北海道大学医学部・歯学部附属病院看護部看護師長
平成16年 4 月	北海道大学病院看護部看護師長
平成29年 3 月	北海道大学定年退職

(北海道大学病院)

構内初の新感覚コンビニエンスストアオープン発表と 株式会社セコマとの「地域創生連携協定」締結

本学は、株式会社セコマと連携し、7月下旬、札幌キャンパス内に新感覚コンビニとして「セイコーマート北海道大学店」を開店します。また、コンビニの開店に先立ち、本学と株式会社セコマは、食と安全の分野における製品の分析や商品の共同開発の推進等のため、地域創生連携協定を締結しました。

名和豊春総長は、4月23日（月）の締結式で「協定締結により地域社会へより一層貢献していきたい」と抱負を述べました。株式会社セコマの丸谷智保社長からは、「単なる一店舗ではなく、何かを生み出す創造の場にしたい」と意気込みを語っていただきました。

【セイコーマート北海道大学店について】

本店舗は、一般的なコンビニの概念にとらわれない新しい発想でデザインされています。店舗前のベンチなどゆとりのある空間を作り、開放的な2階の屋外テラスでは、色彩豊かな本学の四季を感じていただけます。

1階にはインフォメーションコーナーを設け、本学の歴史や最先端の研究成果など、本学の魅力を学外に発信するための広報スペースとして活用します。2階の休憩スペースにはテーブルやイス、キッチンを配置し、セミナーやイベントなどで利用することができます。

札幌キャンパスは広大であり、学生や教職員の福利厚生観点から、早

朝・深夜でも営業している小売店舗の不足が課題の一つとなっていました。札幌キャンパスの中心部に位置する一角にセイコーマートを開店することで、学生や教職員へのサービス向上を図ります。

【地域創生連携協定について】

本学が有する研究・教育機能及び知識・技術・ノウハウの集積と、セコマグループのサプライチェーンとしての機能を活かし両者が連携することによって、地域社会・地域経済の発展と活性化に資することを目的としています。

（総務企画部広報課）



セイコーマート北海道大学店



握手する丸谷社長（左）と名和総長（右）

北海道大学ディスティングイッシュトプロフェッサー称号授与式を挙行

4月19日（木）、北海道大学ディスティングイッシュトプロフェッサー称号授与式を執り行い、関係者列席の下、今年度新たにディスティングイッシュトプロフェッサーの称号を付与された方々（渡部直樹教授、岸 玲子客員教授）に対し、名和豊春総長から記念楯が授与されました。

北海道大学ディスティングイッシュトプロフェッサー制度は「北海道大学創基150年に向けた近未来戦略」の策定を機に、教育研究の一層の推進に資

することを目的として、平成26年度に創設したものです。人格が高潔で、世界水準の優れた研究業績を有し、今後更なる研究の進展が見込まれるとともに、本学の名誉を著しく高めることが期待できる本学の教員等へ称号を付与します。

なお、今年度称号を付与された方々は、以下のとおりです。

（総務企画部人事課）



授与式後の記念撮影（左から名和総長、渡部教授、岸客員教授、笠原理事・副学長）

所 属	職名	氏 名	称号付与期間
理学研究院	教授	塚本 尚義	平成30年4月1日～平成33年3月31日 ※付与期間更新
国際連携研究教育局 (GI-CoRE) 及び 先端生命科学研究院	教授	ゲン 剣萍	平成30年4月1日～平成33年3月31日 ※付与期間更新
国際連携研究教育局 (GI-CoRE) 及び 医学研究院	教授	白土 博樹	平成30年4月1日～平成33年3月31日 ※付与期間更新
低温科学研究所	教授	渡部 直樹	平成30年4月1日～平成33年3月31日
環境健康科学研究 教育センター	招へい教員 (客員教授)	岸 玲子	平成30年4月1日～平成31年3月31日
国際連携研究教育局 (GI-CoRE)	教授	デイビット チャールズ ジャクソン	平成30年4月1日～平成31年3月31日 ※付与期間更新
国際連携研究教育局 (GI-CoRE)	教授	ロレーナ エリザベス ブラウン	平成30年4月1日～平成31年3月31日 ※付与期間更新
国際連携研究教育局 (GI-CoRE)	教授	エリザベス ルイズ ハートランド	平成30年6月1日～平成31年3月31日 ※付与期間更新
国際連携研究教育局 (GI-CoRE)	招へい教員	マイケル ルビンスタイン	平成30年4月1日～平成31年3月31日 ※付与期間更新

名和総長がロシア大学学長会議総会に出席



会議後に交友を深める北海道大学名和総長(右)、モスクワ大学サドーヴニチ学長(中央)、東海大学山田学長(左)



演説するプーチン大統領

4月26日(木)、名和豊春総長がサントペテルブルク工科大学(ロシア連邦)で開催された第11回ロシア大学学長会議総会に出席しました。

ロシア大学学長会議は、1992年に設立されたロシア連邦の公的な組織です。代表者は、モスクワ大学のサドーヴニチ学長で、700名以上のロシア国内の大学長等が加盟しています。主にロシアの教育・科学の発展、国際化等に資する活動を行っています。今回のロシア大学学長会議総会には、プーチン大統領やロシア教育科学省のヴァシリエヴァ大臣が出席するなど、ロシア国内でもアカデミアにおける重要な会議として位置付けられています。名和総長は、5つの分科会の1つである「ロシアの大学の国際的な活動」と全

体会の両方に出席しました。

分科会「ロシアの大学の国際的な活動」では、50名以上の大学関係者が出席し、大学ランキング、ロシアへの留学生受入れ推進、海外の大学との連携といった幅広いテーマで約15名のスピーカーが発表しました。名和総長は、文部科学省の「大学の世界展開力強化事業」で実施しているプラットフォーム構築プログラムをはじめとする日露大学協会の活動と北海道大学の概要について発表し、日本の大学がロシアの大学と積極的に交流を推進していることをPRしました。

その後の全体会では、プーチン大統領が演説を行い、大学が技術進歩のコアとなり、産業界と連携しながら地域経済の発展に貢献すること、ロシアの

教育システム全体の質を向上させることに対する、大学への大きな期待を表明しました。また、モスクワ大学のサドーヴニチ学長は、国際的な活動の1つとして「2週間後には日露の学長会議のために札幌を訪問する」と述べ、本学での開催が予定されている第1回日露大学協会総会が全体会でも言及されました。

今回のロシア大学学長会議総会と、第1回日露大学協会総会を契機として、日本とロシア両国の高等教育機関の相互交流や友好関係が今後ますます深まることが期待されます。

(国際部国際連携課)

北大フロンティア基金

北大フロンティア基金は、本学の創基130年を機に、教育研究の一層の充実を図り、これまで以上に自主性・自立性を發揮して大学としての使命を果たすため、平成18年10月に創設しました。

募金目標額は50億円です。奨学金制度の充実や留学生への支援などの学生支援を中心に、研究支援、学部等支援など様々な事業を行っており、期限を付さない、息の長い募金活動することとしています。

皆様には基金の趣旨にご賛同いただき、ご協力をお願いします。

北大フロンティア基金情報

基金累計額（4月30日現在）

22,137件 4,441,662,769円

4月のご寄附状況

法人等12社、個人140名の方々から19,175,990円のご寄附を賜りました。

そのご厚志に対しまして感謝を申し上げますとともに、同意をいただいているの方々のご芳名、銘板の掲示、感謝状の贈呈について掲載させていただきます。（五十音別・敬称略）

寄附者ご芳名（法人等）

一般社団法人恵迪寮同窓会、砂川市立病院、株式会社日本政策投資銀行、日本甜菜製糖株式会社、医療法人はまなす、株式会社北洋銀行、北海道ガス株式会社、株式会社北海道銀行、丸水札幌中央水産株式会社、

寄附者ご芳名（個人）

合川 正幸	安達 勝夫	石川 恵美	石澤 登	井上 芳郎	入澤 秀次	大庭 眞治	小内 透
小野澤敏弘	小原 大和	香取 賢一	金川 眞行	鎌田 裕実	紙丸 雅実	亀倉 更人	川崎 弘美
河本 充司	川本 泰広	菅野由岐子	木村 成二	木村 牧子	工藤 良成	栗林 道夫	小坂 達朗
小鷲 陽一	斉藤 久	坂本 成次	坂本 大介	桜井 謙介	佐々木亮子	澤井 一彦	三升畑元基
塩野 恒夫	瀬名波栄潤	田中 一哉	谷口 鈴代	田淵 卓夫	土家 琢磨	寺澤 睦	東藤 和奈
富田 裕	豊田 威信	豊田 真嗣	西村 裕一	林 慶之助	東 香苗	福田 千鶴	福田 文治
本郷 隆二	三段崎俊彦	溝口 昭弘	宮田 俊弘	安井 敬一	安延 義弘	山羽 好幸	横堀 孝
吉田 広志							

銘板の掲示（20万円以上のご寄附）

（法人等）

一般社団法人恵迪寮同窓会、砂川市立病院、医療法人はまなす、丸水札幌中央水産株式会社

（個人）

安達 勝夫、小野澤敏弘、小坂 達朗、塩野 恒夫、西村 裕一

感謝状の贈呈



岩下 明裕 様（平成30年4月11日）

ご寄附のお申し込み方法

北大フロンティア基金ホームページの「教職員の方によるご寄附について」にアクセスして下さい。

<https://www.hokudai.ac.jp/fund/howto-staff.html>

①給与からの引き落とし

ホームページから「北大フロンティア基金申込書（兼・給与口座からの引落依頼書）」をダウンロードし、ご記入の上、基金事務室に提出してください。

②郵便局または銀行への振り込み

基金事務室にご連絡ください。払込取扱票をお送りします。

③現金でのご寄附

寄附申込書に現金を添えて、基金事務室にご持参ください。

申込書は、ホームページから「北大フロンティア基金申込書（教職員現金用）」をダウンロードしてご記入いただくか、基金事務室にもご用意していますので、基金事務室にお越しただいてからご記入いただくことも可能です。

④クレジットカード決済・コンビニ決済でのご寄附

北大フロンティア基金ホームページ

（<https://www.hokudai.ac.jp/cgi-bin/fund/bin/xRegist.cgi>）の寄附申し込みフォームから申込をお願いします。

北大フロンティア基金に関する問い合わせ 基金事務室（北海道大学 百年記念会館内・学内電話 2017）

（総務企画部広報課）

北大フロンティア基金『北大みらい投資プログラム』の創設

「北大フロンティア基金」は、平成18年10月に創設されて以来、教職員はもとより、卒業生や企業などのたくさんの方々からの温かいご支援に支えられ、学生や留学生に対する様々な支援を中心に活用してまいりました。

このたび、より一層の充実を図るた

め、「北大みらい投資プログラム」を北大フロンティア基金の中に創設いたしました。

このプログラムは、国内外の各地で活躍する卒業生からの「個人寄附」により運営され、具体的には、苦学生への修学支援や、海外留学をはじめ広く

課外活動への支援などに活用いたします。

卒業生の皆様のご支援・ご協力を心よりお待ちしております。

(総務企画部広報課)



北大みらい投資プログラム
—あなたが北大の未来を拓く—

卒業生による後輩学生のための「個人寄附」のプログラムです。
北大フロンティア基金HPにアクセスして下さい。
<https://www.hokudai.ac.jp/fund/mirai.html>



「北海道大学短期留学プログラム（HUSTEP）」、 「日本語・日本文化研修コース（日研コース）」及び「日本語研修コース」入学式を挙

本年4月入学の「北海道大学短期留学プログラム（HUSTEP）」、「日本語・日本文化研修コース（日研コース）」及び「日本語研修コース」の入学式を、4月9日（月）に学術交流会館において行いました。

HUSTEPは、本学の国際交流協定校に在籍する留学生に対して原則として英語による授業を実施するプログラム、日研コースは、母国で日本語・日本文化に関する教育を行う学部在籍している留学生に対して日本語、日本文化、日本事情に関する教育を行う研修コース、そして日本語研修コースは、大学院進学前の大使館推薦の国費留学生に対して開設されている6か月

間の日本語予備教育を行う研修コースです。

今回入学したのはHUSTEPに34名、日研コースに14名、日本語研修コースに13名の61名です。

出席者の紹介が行われた後、各プログラム担当教員によるプログラム紹介があり、学生は起立し、出席者と学生に向かって一礼し、暖かい拍手で迎えられました。続いて、笠原正典国際連携機構長から祝辞が述べられました。

入学式終了後、同会場にて外国人留学生のためのオリエンテーションが行われました。大学での事務手続き等の説明の他、札幌北警察署や札幌国際プラザによる交通安全や札幌での生活に

ついでのご案内、在学生による大学生活に関する簡単な発表などがあり、新しい生活に向けて学生たちは熱心に聞き入っていました。

（国際部国際教務課）



笠原国際連携機構長による祝辞



北海道大学短期留学プログラム（HUSTEP）留学生



日本語・日本語文化研修コース（日研コース）留学生



日本語研修コース留学生

北海道大学私費外国人留学生特待プログラム留学生採用証書授与式を挙行



全員での記念撮影



笠原国際連携機構長から採用証書授与

北海道大学私費外国人留学生特待プログラム留学生に採用され4月に入学した留学生に対し、同特待プログラム留学生採用証書授与式を、4月20日（金）に国際連携機構大会議室で行いました。

授与式には、笠原正典国際連携機構長をはじめ、指導教員など関係者が出席し、笠原国際連携機構長から留学生一人ひとりに採用証書が授与されました。

証書が手渡された後、笠原国際連携

機構長から祝辞が述べられ、「後に続く留学生の目標となるような研究成果を期待している。また、日本文化や日本語についても数多く学んでほしい」という言葉を、留学生は真剣なまなざしで聞いていました。

北海道大学私費外国人留学生特待プログラムは、国際的な貢献に寄与する人材を育成することを目的とし、平成20年度に開始された制度です。本学の実験研究に深い関心を持つ大学院の研究科及び学院並びに博士課程教育リ

ディングプログラムに入学する私費外国人留学生を対象としており、アドミッションポリシー、研究分野、研究の課題等を明確にしたプログラムに基づき受入れを行っています。

現在は、今回の4月入学者の2名を含め、32名の特待プログラム留学生が在籍しています。

（国際部国際教務課）

■ 部局ニュース

ベトナム・ホーチミン市長を団長とする視察団が農学研究院 ビークルロボティクス研究室の農業用ロボットトラクタを視察

4月11日（水）、ベトナム社会主義共和国のホーチミン市長（市人民委員会委員長）であるグエン・タイン・フォン氏を団長とする視察団33名が本学を訪問されました。北海道とベトナムの両国間では農業などの技術交流が盛んに行われており、本視察団は道内の農業施設などを視察するため来道されました。本学への訪問はその一環であり、最先端の農業技術である農業用ロボットトラクタ（農学研究院ビークルロボティクス研究室で研究開発中）の無人運転を視察されました。

視察団の団長が市長を務めるホーチミン市（旧名：サイゴン）はベトナム最大の人口（800万人以上）を擁する都市であり、ベトナムにおける経済の中心地となっています。視察団はホーチミン市長を筆頭にホーチミン市政府の要人、ホーチミン経済大学学長など大学関係者、企業の社長・副社長など、およびベトナムの報道関係者（テ

レビ局、新聞社）で構成されていました。また、本視察団の受け入れを北海道庁が担当しており、辻 泰弘北海道副知事をはじめ北海道道庁関係者も同行されました。

現在日本においては農業従事者の減少や高齢化による人手不足が深刻になっていますが、ベトナムなど日本以外のアジア諸国においても農村部から都市部への人口流出が進んでおり同様の問題が生じつつあります。ビークルロボティクス研究室ではこうした問題を見越して約27年前から無人トラクタ（ロボット）の研究・開発を行っています。

本視察で披露したデモンストレーションは、無人のロボットトラクタがまず車庫を出発し、農道を移動して圃場（畑）に入り農作業を行った後、再び車庫に戻るという流れになります。あいにく視察当日は雨のため圃場内での走行は省略せざるを得ませんでした

が、運転者のいないトラクタがGPSなどの情報をもとに正確に走行する様子を紹介することができました。また、ロボットトラクタの実用化に向けては安全性の担保も重要となりますが、ロボットトラクタと併せて開発している安全センサ（障害物センサ）の紹介として、人間がトラクタの前や横に飛び出した際ロボットが自動的に停止し、その人間がいなくなると再び走行を始める様子を実演しました。

本視察ではビークルロボティクス研究室の岡本博史准教授が対応を行い、概要の説明および視察団からの質問への回答などを行いました。また、当研究室に所属するベトナムからの留学生も参加し、日本とベトナムにおける農業の現状やベトナムでのロボット農業の可能性などについてベトナム語にて質疑を行いました。

（農学院・農学研究院・農学部）



視察の様子



農業用ロボットトラクタ



岡本准教授(左)、グエン・タイン・フォン市長(中央)

第43回時計台サロン イグ・ノーベル賞受賞記念講演会を道新ホールで開催

世の中を笑わせ、考えさせる世紀の「イグ・ノーベル賞」(2017年度生物学部門)を、農学研究院吉澤和徳准教授(昆虫体系学研究室、専門:昆虫分類学)が受賞しました。これを記念した講演会(演題:オスメス逆転昆虫!〜トリカヘチャタテ〜)を、4月24日(火)、札幌市中央区の道新ホールにて札幌市民の皆様への公開講座として開催しました。会場には350人の市民が詰めかけ、最後まで熱心に耳を傾けました。司会に鈴木 舞さん(FM北海道Air-Gパーソナリティー)、農学研究院小林国之准教授(地域連携経済学)をお招きし、やさしく、楽しく、熱い講演が行われました。吉澤准教授によると「性器逆転昆虫の発見はとても大きな驚きで、多くの科学誌や一般的なメディアで速報されたほか、ドイツの大人向けサイトでも紹介され、ついには今回の受賞に繋がった」とのことです。

本講演会は18:00開場、18:30開

演、20:30終演で進められ、前座の30分間は、農学部、北大マルシェならびにあぐり大学・親子講座(農学部、北海道新聞社編集局主催)の紹介DVDが上映されました。前座の締めとして、「吉澤准教授はアロハシャツで登壇するか、もしくはジャージ姿か」との問いが聴衆に投げかけられ、ジャージ姿の吉澤准教授が登壇され、和やかな雰囲気の中、本題が始まりました。

イグ・ノーベル賞とは?、なぜ昆虫学者になったかの先生の生い立ち、チャタテ虫の紹介、世界に散らばる極少数しかいないチャタテ虫研究者、トリカヘチャタテの生息地とその生態、研究の苦労話をスライドと動画を交えて市民の方々に理解してもらえようという講演がなされました。本講演会により農学部で行われている研究の一端を市民の皆様にご紹介出来たものと思われます。吉澤准教授らのグループの発見により、「ペニスはおスが有するもの」の定義が過去のものと葬り去ら

れ、なぜ逆転してしまったのか、進化の過程はいかなるものであったかを探究する新領域が見出されました。また、「どうしてこのような役に立たないような、立つような地道な基礎研究が必要か」の問いに明快な解答が示され、これからの科学研究推進への貴重な方向づけがなされました。

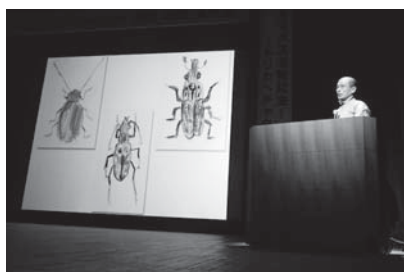
講演後には、高校生を含む来場者からの質問に対して、吉澤准教授が自ら回答しました。その後、横田 篤農学研究院長による閉会の挨拶があり、講演会を無事に終了することができました。

本講演会は農学部ならびに北海道新聞社編集局主催の札幌市民向けの公開講座、時計台サロンの拡大版であり、札幌農学同窓会にも主催に加わっていただいたほか、北海道、札幌国際プラザの後援を賜りました。ここにお礼申し上げます。

(農学院・農学研究院・農学部)



講演を行う吉澤准教授(右)と司会の鈴木アナウンサー、小林准教授(左)



講演を行う吉澤准教授



横田研究院長による挨拶

薬学部で新入生歓迎会を開催

薬学部では、4月13日（金）、薬学部多目的講義室において、後期入試で薬学部へ入学した1年生25名及び薬学部へ移行してきた2年生79名の歓迎会

を開催しました。

歓迎会には、薬学部・薬学研究院全体で約200名の参加があり、木原章雄教授の挨拶の後、学年や研究室を越え

て互いに交流を深め、盛会のうちに終了しました。

（薬学研究院・薬学部）



木原教授の挨拶



司会進行で活躍した学生



学生・教員との交流

平成30年度薬学実務実習開始セレモニーを挙行

薬学部では、4月25日（水）に平成30年度薬学実務実習開始セレモニー「臨床現場へあがるための心得」を挙行しました。

この式は、薬学科5年次生が実務実習（病院実習・薬局実習）に臨むにあたり毎年実施しているもので、学生は実習中のユニフォームとなる真新しい上下の白衣に身を包み、引き締まった面持ちで参加していました。

式には、佐藤美洋薬学部長、松永茂

樹教務委員長、実務実習担当教員らが出席し、実務実習の趣旨や学生に期待すること、昨年度実施された実務実習をふまえての注意点などとともに、激励の言葉が伝えられました。

受け入れ施設からは、北海道大学病院薬剤部の井関 健薬剤部長、株式会社アインファーマシーズの佐藤絵馬氏、株式会社ツルハの高野紀子氏、株式会社なの花北海道の井野千枝子氏が出席し、臨床の現場・患者さんに直接

接する場で実習に臨む際の心構えなどが伝えられ、学生たちの熱心に聞き入る様子が見られました。

また、佐藤薬学部長から学生一人ひとりへ実習中着用するネームプレートが手渡され、病院・薬局合わせて5か月に及ぶ実習への壮行となりました。

（薬学研究院・薬学部）



激励の言葉をかける井関薬剤部長



ネームプレートを手渡す佐藤薬学部長



熱心に聞き入る学生たち

環境科学院及び文学研究科による「北大道新アカデミー」への協力

環境科学院及び文学研究科では、平成30年4月から12月に、北海道新聞社のグループ会社である道新文化センター企画・運営の「北大道新アカデミー」に協力し、両組織を合わせ16名の教員が同アカデミーの講師を務めることとなりました。

この経緯は、平成29年12月25日に、本学と北海道新聞社が「包括連携協定」を締結し、本学が有する研究成果や教育機能及び蓄積された知識を、同社が有する広報機能と連携させることによって、北海道地域への「知」の貢献を目指した包括的な協力体制を構築

することを目的として締結したものです。本アカデミーは、同協定による“いちばん最初の具体的な取り組み”として、理系と文系の2講座が開講され、本学の教員が幅広い世代の市民等に対して、最新の研究などについてわかりやすく講義するものです。

第1回目は、4月12日（木）に、大原 雅環境科学院長の冒頭のあいさつに続き、同学院佐藤友徳准教授が「気象と自然環境，社会」と題して、50名の受講者に講義を行いました。また、4月14日（土）に、文学研究科北村清彦教授が「芸術の見方・考え方」と題

して、53名の受講者に講義を行いました。両講義とも、受講された方はメモを取りながら熱心に聞き入っていました。このいちばん最初の具体的な取り組みが、好評を博し十分な成果につながることを大いに期待しております。

同アカデミーにおける、環境科学院及び文学研究科の担当教員等は次のとおりです。

（環境科学院・地球環境科学研究院、
文学研究科・文学部）



冒頭の挨拶を行う大原環境科学院長



講義を行う佐藤准教授



文学研究科・文学部公開講座のポスターを用いて解説する北村教授



講義の様子

◆環境科学院「テーマ：地球環境の今－陸，海，空から」〔会場：環境科学院講義室〕

回	開催日	担 当 教 員	タ イ ト ル
1	4月12日	佐藤 友徳 准教授	気象と自然環境，社会
2	4月26日		北海道の気候－現在・過去・未来
3	5月10日	鈴木 仁 教授	哺乳類から見える地史と人類史
4	5月24日		テンの毛色がいろいろあるわけ
5	6月14日	山本 正伸 准教授	変わりゆく気候－太陽と火山の役割
6	6月28日		歴史と気候変動
7	7月12日	八木 一三 教授	水素エネルギー社会
8	7月26日		燃料電池のしくみ
9	9月13日	根岸 淳二郎 准教授	地下から河畔への命のつながり
10	9月27日		サケの産卵と河川環境
11	10月11日	鈴木 光次 教授	広い海洋の大きな役割
12	10月25日		海洋の物質循環・生態系と地球環境変化
13	11月8日	小泉 逸郎 准教授	動物たちの恋人えらび
14	11月22日		人生の分岐点：サケはこう決める！
15	12月13日	工藤 岳 准教授	高山植物の生きる術
16	12月27日		地球温暖化と高山生態系

◆文学研究科「テーマ：ワールド・カルチャー・マップ－アートで巡るヒト・モノ・コト」
〔会場：道新アカデミー講義室（北海道新聞社内）〕

回	開催日	担 当 教 員	タ イ ト ル
1	4月14日	北村 清彦 教授	芸術の見方・考え方
2	4月28日		作品と対話する
3	5月12日	谷古宇 尚 教授	イタリア美術の基本 キリスト教と美術の深い関係
4	6月2日		こんなところにイタリア美術！ 遠くて近いイタリアと日本
5	6月16日	浅沼 敬子 准教授	アートとまちのものがたり 1 カッセルのドクメンタ
6	6月23日		アートとまちのものがたり 2 ベルリンの国会議事堂
7	7月7日	鈴木 幸人 准教授	絵馬めぐり 1 大絵馬と絵馬堂のアートヒストリー
8	7月14日		絵馬めぐり 2 船絵馬と北前船のネットワーク

※9月（第9回）以降は、「ワールド・カルチャー・マップ－時空を越えたヒト・モノ・コト」と題して、
歴史系教員4人による全8回の講座を開講予定です。

工学研究院で寄附分野「地域防災学分野」の開設式を挙行



懇親会後の集合写真

工学研究院では、4月18日（水）、工学研究院アカデミックラウンジ1において、寄附分野「地域防災学分野」の開設式を挙行了しました。この寄附分野は、北海道をはじめとする地域の防災力向上に資するため、北海道河川財団の寄附により4月1日付けで工学研究院環境フィールド工学部門に設置されたものです。これにより、本学における産学官連携の枠組みの発展及び北海道のような高緯度寒冷地という地域

性と社会的要素を反映した河川工学の新しい研究開発及び人材育成のさらなる加速が期待されます。

開設式では、清水康行教授から開会の辞と本寄附分野の開設経緯の紹介が行われ、引き続き、北海道開発局長の和泉晶裕氏から祝辞が述べられました。その後、今日出人特任教授から、本分野開設の挨拶及び概要説明が行われました。

開設式後には、ファカルティハウス

「エンレイソウ」にて祝賀懇親会を開催しました。懇親会では、北海道河川財団の丹保憲仁会長（北海道大学名誉教授、元北海道大学総長）、名和豊春総長から祝辞が述べられ、引き続き、名和総長から丹保会長へ感謝状の授与が行われました。懇親会には、総勢60名以上の参加があり、盛会のうちに終了しました。

（工学院・工学研究院・工学部）



開設式横断幕



今特任教授による寄附分野の概要説明



開設式の様子



感謝状の授与

脳科学研究教育センター発達脳科学専攻の開講式を挙行

脳科学研究教育センターでは、4月4日（水）にファカルティハウス「エンレイソウ」第1会議室において、今年度入学した履修生の開講式を行いました。

渡邊雅彦センター長（医学研究院教授）から、祝辞とともに発達脳科学専攻の特色ある教育体制や研究指導内容について説明があり、新入生は、バーチャル専攻の特徴を活かした大学院教育に、大きな期待を示していました。

引き続き、出席した基幹教員と履修生の自己紹介の後、小川宏人センター教務専門委員会委員長（理学研究院教授）から、修了要件についての説明があり、「所属学院・研究院の課程のみを修了する大学院生に比べ、より多く

の単位を修得する必要がある、さらには当センターの合宿研修や発表会等で研鑽を積むことになり大変ではあるが、その経験は必ず将来の自信につながるので頑張っていたきたい」との激励がありました。

開講式に引き続き、同会場にて新入生歓迎交流会が行われ、参加者は所属

部局の違いを越えて情報交換を楽しんでいました。

本専攻には、今年度15名の履修生（修士課程14名、博士課程1名）が加わり、全体では32名の履修生が在籍することになります。

（脳科学研究教育センター）



新しく加わった履修生と基幹教員



新入生歓迎交流会の様子

総合博物館で写真パネル展「シマエナガさんの12ヶ月」を開催

総合博物館では、北海道の生物多様性の理解と保全のために、その自然環境の素晴らしさ、生き物たちの多様さを、写真パネル展を通して紹介したいと考えています。

その1回目の写真パネル展として、国内では北海道にのみ分布する鳥類シマエナガの写真パネル展「シマエナガさんの12ヶ月」を開催いたしました。会期は1月21日（日）から3月30日（金）まででしたが、好評につき、4

月15日（日）まで延期されました。

阿寒湖を中心とした道東域で動植物の撮影をされている自然写真家、山本光一さんの協力を得て、この写真展は実現しました。展示会場には、参加型展示コーナーが設けられ、来館者が感想や可愛いシマエナガのイラストを書き込んだ付箋が所狭しと貼られました。来館者のコメントからも、写真展が好評であったことが伺えました。また2月17日（土）には、山本氏と理

学研究院の高木昌興教授による関連セミナー・スライドトーク「自然写真家と鳥類学者による小型鳥類の魅力」を開催しました。約100名の参加があり盛況に終わりました。会期中の来館者数は37,321名でした。写真パネルを提供していただいた自然写真家、山本光一氏、河瀬 幸氏、三浦大輔氏に厚くお礼申し上げます。

（総合博物館）



企画展示室入口



可愛い写真がずらりと並ぶ



テーブルには参加型展示コーナー用の付箋とペン



シマエナガさんにひと言コーナー



付箋びっしりのシマエナガさん

国際広報メディア・観光学院で履修証明プログラム 「デスティネーション・マネージャー育成プログラム」開講式を開催

昨年度6月に1期生7名でスタートした履修証明プログラム「デスティネーション・マネージャー育成プログラム」は、今年度、新たに2期生として4名の受講生を迎え、開講式を4月3日（火）に国際広報メディア・観光学院で行いました。開講式では、山田義裕学院長が挨拶し、本プログラムの意義や受講生への期待を述べました。その後、受講生から自己紹介とそれぞれの熱い抱負が述べられ、カリキュラムの内容に関するガイダンスなどが行われました。

開講式に先立つ3月22日（木）に挙行された履修証明プログラム1期生の修了式では、所定の修了要件を満たし

最終課題に合格した6名に、総長名の「履修証明書」と国際広報メディア・観光学院長名の「デスティネーション・マネージャー」の称号が授与されました。2期生は全員が社会人であり、多くの授業科目が大学院の正規科目であることから、学生とお互いに刺激を与え合いながら、観光庁が設立を推進している「日本版DMO（デスティネーション・マネジメント・オーガニゼーション）」において活躍できる人材が育つことが期待されています。本学院としても、今年度の教育プログラムを4月開講とし、（株）JTBの現役社員によるフィールド実習を含んだ実践的な必修科目を新たに加え、

より充実したカリキュラムを設定しています。

今後、本学が実施する履修証明プログラムとしては2例目となる「デスティネーション・マネージャー育成プログラム」の修了生に授与される「履修証明書」と「デスティネーション・マネージャー」の称号が、北海道をはじめとする国内外において観光地域経営の人材に求められる資格として定着してゆくことが期待されます。

（国際広報メディア・観光学院、
メディア・コミュニケーション研究院、
観光学高等研究センター）



開講式において山田学院長の言葉に耳を傾ける2期生



2期生3人を囲む山田学院長（左から5人目）とプログラム担当教員



修了式に臨む6名の1期生と学院教員

物質科学リーディングプログラム（ALP）がタイ国立遺伝子生命工学研究センターで海外サマーキャンプを開催



合同シンポジウムの集合写真

物質科学リーディングプログラム（ALP）では、3月28日（水）から30日（金）にかけて、タイ国立科学技術開発庁傘下の研究所である国立遺伝子生命工学研究センター（BIOTEC）で海外サマーキャンプを開催しました。海外サマーキャンプとは、ALPの必修イベントの一つであり、プログラム生が海外の大学や研究機関などと共同でシンポジウム等の学術集会や交流イベントを企画・運営するものです。通算7回目の開催となった今回の海外サマーキャンプには、プログラム生8名、プログラム教員1名、産業技術総合研究所から1名の総勢10名が参加しました。

韓国のインチョン経由で28日午後にバンコクに到着し、29日朝早くからメインイベントである合同シンポジウムが始まりました。このシンポジウムでは、本学のほか、産総研、BIOTEC、マヒドン大学の教員・研究者による講演に加え、午後からは両国から参加した学生および若手研究者によるショートプレゼンテーションとポスター発表

が行われました。会場では熱のこもった討論が行われ、冷房完備にもかかわらず暑く感じるほどでした。マヒドン大学から参加したある学生は「日本の学生の本気さが伝わってきた」と話していました。

ポスター発表終了後は、応用微生物学が専門であり、今回BIOTEC側でホストを務めていただいたLily Eurwilaichitr副所長が運営するタイランドバイオリソースセンター（TBRC）の見学を行いました。TBRCでは、熱帯の地の利を生かして多様な微生物資源の収集を行っており、そのコレクション数は世界第6位であるとの説明を受けました。これらの微生物株は世界中から提供依頼が殺到しているということです。

最終日には、ASAHI-ASTというバイオテクノロジー企業の見学を行いました。同社は、BIOTECとライセンス契約を締結することにより、TBRCが保有する微生物を用いた酵素製品の生産を行っています。稲わらなどの農業残渣を原料として、酵素が製品として

出荷されるまでの生産ラインを見学させていただきました。同日午後には空港に戻り、往路と逆経路で札幌に帰りました。

参加したプログラム生の多くは、プログラムの語学研修や海外渡航支援制度などを利用して、海外での経験をすでに積んでいました。このため、コミュニケーションの問題はほとんど起こらず、現地の学生や研究者と交流をすることができました。今回のサマーキャンプは過密なスケジュールで体力的には大変でしたが、本プログラムの存在感を国際的に示すことができたという点で非常に有意義であったと思います。最後に、BIOTEC副所長のLily Eurwilaichitr博士、産業技術総合研究所の宮崎健太郎博士、マヒドン大学シリラート病院医学部のChanwit Tribuddharat博士をはじめ、多くの方々から本イベントに対するご協力をいただいたことに感謝いたします。

（総合化学院）

■お知らせ

北海道地区福祉共同事業契約宿泊施設の開設

文部科学省共済組合北海道大学支部では福祉共同事業の一環として、毎年道内各地の宿泊所・保養所と利用契約し、宿泊費の一部負担を実施していますが、平成30年度においても次のとおり実施しています。

なお、予算の関係上、割当枚数に達した場合は、契約期間中でも利用券発行を停止しますので、ご了承ください。

1. 契約宿泊施設 宿泊施設一覧表のとおり
2. 契約期間 平成30年6月1日（金）～平成31年2月28日（木）
3. 共済組合負担額 利用者1人1泊につき1,500円補助
4. 利用方法 利用券の発行を受ける場合には、利用券発行申請書を所属部局の担当係へ提出してください。
発行された利用券はチェックインの際に施設受付で提示し、利用券を使用して宿泊する旨を伝えてください。なお、旅行代理店やインターネットにおける予約をご利用の場合は、宿泊利用券の使用が認められないことがあります。また、事前にクレジットカード等を利用して宿泊料を支払ってしまうと、利用券が使用できなくなりますのでご注意ください。
5. 利用資格者 組合員及びその被扶養者（小学生以上）とします。ただし、出張の際の利用はできませんので、ご注意ください。また、一度につき、3泊以上の利用はご遠慮願います。

平成30年度 宿泊施設一覧

施設名	所在地	電話
札幌ガーデンパレス	〒060-0001 札幌市中央区北1条西6丁目	011-261-5311
シャトレゼ ガトーキングダムサッポロ	〒002-8043 札幌市北区東茨戸132	011-773-2211
定山溪ビューホテル	〒061-2302 札幌市南区定山溪温泉東2丁目	011-598-3223
定山溪鶴雅リゾートスパ 森の譚	〒061-2302 札幌市南区定山溪温泉東3丁目192	011-598-2671
KKRはこだて	〒042-0932 函館市湯川町2丁目8-14	0138-57-8484
啄木亭	〒042-0932 函館市湯川町1丁目18-15	0138-59-5355
HAKODATE 海峡の風	〒042-0932 函館市湯川町1丁目18-15	0138-59-1126
望楼NOGUCHI 函館	〒042-0932 函館市湯川町1丁目17-22	0138-59-3556
グリーンピア大沼	〒049-2192 茅部郡森町赤井川229	01374-5-2277
八雲温泉 おほこ荘	〒049-3128 二世郡八雲町鉛川622	0137-63-3123
洞爺観光ホテル	〒049-5721 虻田郡洞爺湖町洞爺湖温泉33	0142-75-2111
洞爺サンパレス	〒049-5731 有珠郡壮瞥町字洞爺湖温泉7-1	0142-75-1111
湖畔亭	〒049-5721 虻田郡洞爺湖町洞爺湖温泉7-8	0142-75-2211
乃の風リゾート	〒049-5721 虻田郡洞爺湖町洞爺湖温泉29-1	0142-75-2600
緑の風リゾートきたゆざわ(旧名水亭)	〒052-0316 伊達市大滝区北湯沢温泉町300-2	0142-68-8126
きたゆざわ森のソラニワ(旧第二名水亭)	〒052-0316 伊達市大滝区北湯沢温泉町300-7	0142-68-6677
ホロホロ山荘	〒052-0316 伊達市大滝区北湯沢温泉町34	0142-68-6321
登別グランドホテル	〒059-0592 登別市登別温泉町154	0143-84-2425
登別温泉 御やど清水屋	〒059-0551 登別市登別温泉町173	0143-84-2145
石水亭	〒059-0596 登別市登別温泉町203-1	0143-84-2255
望楼NOGUCHI 登別	〒059-0551 登別市登別温泉町200-1	0143-84-3939
ニセコグランドホテル	〒048-1511 虻田郡ニセコ町ニセコ412	0136-58-2121
ルスツリゾートホテル	〒048-1711 虻田郡留寿都村字泉川13	0136-46-3331
かんぼの宿 小樽	〒047-0154 小樽市朝里川温泉2丁目670	0134-54-8511
休暇村 支笏湖	〒066-0281 千歳市支笏湖温泉	0123-25-2201
しこつ湖鶴雅リゾートスパ 水の譚	〒066-0281 千歳市支笏湖温泉	0123-25-2211
新苫小牧プリンスホテル「和～なごみ～」	〒053-0045 苫小牧市双葉町3丁目2-8	0144-32-9222

星野リゾート トマム	〒079-2204 勇払郡占冠村字中トマム	0167-58-1122
サホロリゾートホテル	〒081-0039 上川郡新得町狩勝高原	0156-64-7111
大雪山白金観光ホテル	〒071-0235 上川郡美瑛町白金温泉	0166-94-3111
層雲閣グランドホテル	〒078-1792 上川郡上川町層雲峡温泉	01658-5-3111
朝陽亭	〒078-1795 上川郡上川町層雲峡温泉	01658-5-3241
朝陽リゾートホテル	〒078-1701 上川郡上川町層雲峡温泉	01658-5-3911
ホテル日航ノースランド帯広	〒080-0012 帯広市西2条南13丁目1	0155-24-1234
ホリデーイン ホテル十勝川	〒080-0263 河東郡音更町十勝川温泉南16丁目2	0155-46-2555
ニュー阿寒ホテル	〒085-0467 釧路市阿寒町阿寒湖温泉2丁目8-8	0154-67-2121
あかん湖鶴雅ウイングス	〒085-0467 釧路市阿寒町阿寒湖温泉4丁目6-10	0154-67-4000
あかん遊久の里 鶴雅	〒085-0467 釧路市阿寒町阿寒湖温泉4丁目6-10	0154-67-4000
あかん鶴雅別荘 鄙の座	〒085-0467 釧路市阿寒町阿寒湖温泉2丁目8-1	0154-67-5500
阿寒の森鶴雅リゾート 花ゆう香	〒085-0467 釧路市阿寒町阿寒湖温泉1丁目6-1	0154-67-2500
KKRかわゆ	〒088-3465 川上郡弟子屈町川湯温泉1-2-15	015-483-2643
知床第一ホテル	〒099-4351 斜里郡斜里町ウトロ香川306	0152-24-2334
サロマ湖鶴雅リゾート	〒093-0216 北見市常呂町栄浦306-1	0152-54-2000
塩別つるつる温泉	〒091-0163 北見市留辺蘂町滝の湯201	0157-45-2225
北天の丘 あばしり湖鶴雅リゾート	〒099-2421 網走市呼人159	0152-48-3211

(文部科学省共済組合北海道大学支部)

■ 諸会議の開催状況

役員会（平成30年 4 月 9 日）

協議事項・諸規則の制定について

- ・就業規則関連規程の一部改正について

報告事項・平成29年度実施法科大学院認証評価結果について

- ・平成30年度学部入学者数について
 - ・東日本大震災等で被災した本学学部志願者への受験支援金の給付について
-

教育研究評議会（平成30年 4 月18日）

議 題・総長選考会議委員の選出について

- ・名誉学位の授与について
- ・授業料未納者の退学に係る運用の見直しについて
- ・学術コンサルティング制度の創設について
- ・諸規則の制定について

報告事項・平成30年度世界トップレベル研究拠点プログラム（WPI）の一次審査申請について

- ・経営協議会の学内委員の指名について
 - ・ディスティングイッシュトプロフェッサーの称号付与について
 - ・大学間交流協定の新規締結について
 - ・平成29年度実施法科大学院認証評価結果について
 - ・産業創出部門の設置及び更新について
 - ・「北大みらい投資プログラム」について
-

役員会（平成30年 4 月23日）

議 案・名誉学位の授与について

- ・授業料未納者の退学に係る運用の見直しについて
- ・学術コンサルティング制度の制定について
- ・諸規則の制定について
- ・就業規則関連規程の一部改正について
- ・株式会社セコマとの地域創生連携協定の締結について

協議事項・名誉学位の授与について

※規程の制定、改廃については、「学内規程」欄に掲載しています。

■ 学内規程

国立大学法人北海道大学情報公開・個人情報保護審査委員会規程の一部を改正する規程

(平成30年4月17日海大達第85号)

平成29年5月30日付けで、独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律が改正されたことに伴い、委員会の審議事項及び庶務について、所要の改正を行ったものです。

北海道大学病院諸料金規程の一部を改正する規程

(平成30年4月26日海大達第86号)

日本国内で有効な健康保険に加入していない外国籍の者の診療等の料金単価を新たに設定することに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学学術コンサルティング規程

(平成30年5月1日海大達第87号)

企業等からの委託を受け、本学の役職員がその教育、研究及び技術上の専門的知識に基づき指導及び助言を行うもので、これに要する経費を委託者が負担する制度を導入することに伴い、必要な事項について所要の定めを行ったものです。

国立大学法人北海道大学職員兼業規程の一部を改正する規程

(平成30年5月1日海大達第88号)

本年5月1日付けで、国立大学法人北海道大学学術コンサルティング規程の制定に伴い、所要の改正を行ったものです。

■ 研修

研修名：平成30年度北海道地区国立大学法人等初任職員研修（一般職）

開催期間：平成30年 4 月11日～13日

開催場所：学術交流会館第一会議室

研修目的：北海道地区国立大学法人等の職員としての心構えを自覚させるとともに、初任職員として必要な基礎的知識を付与することを目的とする。



開講挨拶（名和豊春総長）



特別講話（関靖直理事・事務局長）



受講風景



演習・グループワーク

（総務企画部人事課）

研修名：平成30年度法人文書管理に関する研修会（初任職員向け）

開催期間：平成30年 4 月23日

開催場所：学術交流会館小講堂及び大学文書館

研修目的：本学採用の初任職員に対して、法人文書管理に関する基礎知識を習得させると共に、本学大学文書館公文書室で実施する法人文書の集中管理等について理解を深めることを目的とする。



「法人文書管理の概要」を講義後、大学文書館展示ホールを説明（井上高聡大学文書館准教授）



大学文書館沿革資料収蔵庫を説明
（山本美穂子大学文書館特定専門職）

（総務企画部総務課）

■表敬訪問

海外

年月日	来 訪 者	来 訪 目 的
30.4.19	ベトナム・ホーチミン市教育訓練局Le Hong Son 局長	両国の交流に関する懇談
30.4.20	北京師範大学（中国）Zhou Zuoyu 副学長	両大学の交流に関する懇談
30.4.25	東北大学（中国）Zhao Ji 学長	大学間交流協定調印式及び両大学の交流に関する懇談



ベトナム・ホーチミン市教育訓練局 Le Hong Son 局長
（右側から3番目）



北京師範大学（中国）Zhou Zuoyu 副学長（中央）



東北大学（中国）Zhao Ji 学長（中央）

（国際部国際連携課）

■ 人事

平成30年 5 月 1 日付発令

新 職 名（発令事項）	氏 名	旧 職 名（現職名）
【教授】 大学院歯学研究院教授	樋 田 京 子	採用

新任教授紹介

平成30年5月1日付



歯学研究院教授に

ひだ きょうこ
樋田 京子 氏

口腔病態学分野

生年月日

昭和42年 4 月21日

最終学歴

北海道大学大学院歯学研究科修了（平成10年 3 月）

博士（歯学）（北海道大学）

専門分野

病理学・細胞生物学・がん生物学

名誉教授 ^{いり え}入江 ^{としひろ}敏博 氏
(享年92歳)



名誉教授 入江敏博先生が平成30年1月1日にご逝去されました。

先生は、大正11年4月24日岐阜に生まれ、昭和19年9月京都帝国大学工学部航空工学科を卒業後、川崎航空機工業株式会社に入社、岐阜工場研究部に勤務され、昭和20年9月終戦とともに同社を退社しました。同年9月岐阜市立女子商業学校嘱託、昭和22年3月同校教官として勤務の後、昭和23年4月岐阜農林専門学校講師、昭和25年3月同校教授を経て、昭和26年3月岐阜大学農学部講師に任ぜられ、昭和28年10月同助教授に昇任し、同学部学生に数学、物理学、図学などを講じ、岐阜大学農学部の発展に寄与しました。ま

た、昭和37年2月には、「架空索（道）の振動に関する研究」と題する学位論文により、東京大学より工学博士の学位を授与されました。

昭和39年4月北海道大学工学部教授に就任し、機械工学第二学科機械力学講座の初代担任教授として、開設間もない同講座の整備及び教育方針の確立に努力され、同学科の発展に多大な貢献をされました。昭和61年3月停年により退職し、同年4月北海道大学名誉教授の称号を授与されました。

先生は北海道大学に奉職以来、22年間の永きにわたり、工学部においては機械力学第一、同第二、航空工学など、大学院工学研究科においては機械力学特論、機械工学第二特論ゼミナールなどの講義、演習を担当するとともに、連続体の振動と動的な安定性に関する多くの研究成果を日本機械学会論文集やアメリカ機械学会論文集を始めとする論文誌に多数公表されており、機械力学・機械振動学の進歩に寄与するところ大なるものとして、国内外において極めて高く評価されています。

学内にあっては、工学部各種委員会

の委員長及び委員を務め、同学部の発展に寄与するとともに、学外にあっては、専門分野の業績を基にして、文部省学術審議会専門委員、日本機械学会評議員、商議員、さらには北海道支部長を歴任し、同学会を中心とする学術振興と発展に尽力し、顕著な功績を残されました。また、アメリカの機械学会、音響学会、イギリスの音響・振動誌の論文審査委員を委嘱され、国外の学術部門の発展にも寄与されました。

停年退職後は、7年間、関西大学工学部において教養課程の学生に物理学を講じ、入学間もない学生の教育に尽力されました。

先生は、学術の進歩に寄与すると共に、確固たる信念に基づいた教育によって多数の学生、研究者を育成し、社会に大きく貢献した長年の功績により、平成10年4月に勲三等旭日中綬章を受章されました。

ここに生前のご功績をたたえ、心より哀悼の意を表します。

(工学院・工学研究院・工学部)

財務部長 松本 歩 氏
(享年54歳)



財務部長 松本 歩氏が平成30年5月4日にご逝去されました。

ここに生前のご功績を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

同氏は、昭和40年6月11日長野県に生まれ、長野市内の公立高等学校を卒業後、昭和59年に筑波大学に奉職され、その後、旧文部省、信州大学、名古屋大学、文部科学省、東京海洋大学、筑波大学、北海道大学の要職を歴任され、34年の長きにわたり、文部科学行政や国立大学の発展に尽力されました。

その主なご功績を振り返りますと、平成4年に旧文部省に入省され、約13

年間の勤務を経て、平成17年4月に初めて国立大学の管理職として信州大学の財務課長に着任、平成19年4月には名古屋大学財務課長に着任され、文部科学省で得た豊富な経験や卓越した知識を活かし、大学の業務改革及び教育研究に多大な貢献を果たされました。

その後、平成21年に文部科学省に復帰され、大臣官房会計課において、監査班専門官、政府調達専門官、用度班主査、経理班主査の要職を歴任されました。

特に、用度班主査に在任中の平成23年度は、東日本大震災及び福島原子力発電所事故への対応として、文部科学省職員を被災地に派遣するために必要となる物資や現地で使用する線量計の迅速な調達を指揮されるとともに、文部科学省の事業として実施した被災地からの避難児童のためのサマーキャンプ事業に必要な資材等の調達に尽力されました。

平成26年4月からの3年間は、再び国立大学の管理職として、東京海洋大学の財務部長に着任し、当大学にとっ

て念願であった海洋環境の保全と資源・エネルギーの利用に関する新学部の創設にも尽力され、続く平成29年4月からの1年間は、筑波大学病院事務部長として、小児がん患者とご家族のための「キッズハウス」を設置するなど、病院機能の強化に取り組まれました。

本年4月に本学財務部長に着任されてからも、来年度概算要求や大型競争的資金の確保に向けた文部科学省などの関係機関との協議・調整に着手されるとともに、大学の財務基盤の強化の方策を取りまとめるなど、大学の経営改革に積極的に取り組まれておりました。

元気な様子で職務に励んでおられたのに急に他界されましたことは、未だに信じられず、残念でなりません。ここにこれまでのご苦勞とご功績を偲び、心からご冥福をお祈り申し上げます。

(財務部)

資料

役 職 員 数

平成30年5月1日現在

職 種		総 長	理 事	監 事	小 計	教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	小 計	URA職	専門職	事務職員	技術職員	合 計
部 局 等	役 員	1人	5人	2人	8人	人	人	人	人	人	人		人	人	人	8人
	政策調整室													5		5
	WPI対策室															
	監査室													6		6
事務局	総務企画部												4	92	11	107
	財務部													78		78
	学務部													70		70
	研究推進部													32	1	33
	施設部													10	24	34
	国際部													37		37
	附属図書館													91		91
	文学研究科・文学部					48	30		7		85	3		16		104
	法学研究科・法学部					33	16	1	5	2	57		2	18		77
	情報科学研究科					41	35		17		93					93
	水産科学院・水産科学研究院・水産学部					25	33		22		80				40	120
	函館キャンパス事務部													23	4	27
	環境科学院・地球環境科学研究院					20	23		8	1	52					52
	環境科学事務部													11		11
	理学院・理学研究院・理学部					74	65	11	46	1	197		1		18	216
	理学・生命科学事務部													41	2	43
	薬学研究院・薬学部					16	6	9	20		51				3	54
	薬学事務部													12		12
	農学院・農学研究院・農学部					42	37	31	17		127				11	138
	農学・食資源学事務部													26	2	28
	生命科学院・先端生命科学研究院					10	5	1	8		24					24
	教育学院・教育学研究院・教育学部					12	22		4	1	39					39
	教育学事務部													8		8
	国際広報メディア・観光学院 メディア・コミュニケーション研究院					24	29	1	3		57					57
	メディア・観光学事務部													9		9
	保健科学院・保健科学研究院					23	11	7	33		74					74
	工学院・工学研究院・工学部					90	92	3	89	1	275		1		50	326
	工学系事務部													67	3	70
	総合化学院															
	経済学院・経済学研究院・経済学部					25	17		2		44		2			46
	経済学事務部													8		8
	医学院・医学研究院・医学部					34	29	13	74	2	152				11	163
	医学系事務部													44	2	46
	歯学院・歯学研究院・歯学部					17	19	1	44		81				4	85
	歯学事務部													11	1	12
	獣医学院・獣医学研究院・獣医学部					17	12	4	14		47				3	50
	獣医学系事務部													15		15
	医理工学院															
	国際感染症学院															
	国際食資源学院															
	公共政策学教育部・公共政策学連携研究部					11	7	2			20					20
	北海道大学病院					4	17	52	82		155			121	658	934
	低温科学研究所					14	10	1	22		47			10	9	66
	電子科学研究所					15	13		20		48				10	58
	遺伝子病制御研究所					8	4	5	10		27				7	34
	触媒科学研究所					8	7		6		21				6	27
	スラブ・ユーラシア研究センター					7	2		5	1	15					15
	情報基盤センター					7	5		3		15					15
	人獣共通感染症リサーチセンター					5	4	3	2		14				2	16
	アイソトープ総合センター					1	1		1		3				2	5
	量子集積エレクトロニクス研究センター					3	3				6					6
	北方生物圏フィールド科学センター					13	21		8		42			20	70	132
	観光学高等研究センター					3	2				5					5
	アイヌ・先住民研究センター					1	6		1		8					8
	社会科学実験研究センター															
	環境健康科学研究教育センター						1				1					1
	北極域研究センター					3	1		3		7					7
	脳科学研究教育センター															
	外国語教育センター															
	数理・データサイエンス教育研究センター															
	総合博物館					3	2	2	2		9					9
	大学文書館						1				1		2			3
	保健センター					1		2			3				8	11
	埋蔵文化財調査センター								2		2					2
	国際連携研究教育局					18(37)	7(28)	4(9)	7(16)		36					36
	技術支援本部															
	情報環境推進本部												1			1
	アドミッションセンター															
	人材育成本部															
	創成研究機構						1		2		3		1		8	12
	高等教育推進機構					2	7	1			10				4	14
	サステイナブルキャンパスマネジメント本部															
	安全衛生本部					2					2		1			3
	大学力強化推進本部											10				10
	産学・地域協働推進機構					2					2		8			10
	総合 I R 室															
	国際連携機構					4	4		9		17		4			21
	北キャンパス合同事務部													17		17
合 計		1	5	2	8	686	607	154	598	9	2,054	13	27	898	974	3,974

※国際連携研究教育局の教職員数の（ ）内は、北海道大学ユニットの本務者数で内数。当該教職員は、原籍組織の教職員数に計上
(情報科学研究科：13名、水産科学研究院：2名、地球環境科学研究院：4名、農学研究院：12名、先端生命科学研究院：10名、メディア・コミュニケーション研究院：1名、
保健科学研究院：2名、工学研究院：3名、経済学研究院：1名、医学研究院：10名、獣医学研究院：3名、北海道大学病院：4名、低温科学研究所：1名、電子科学研究所：5名、
スラブ・ユーラシア研究センター：2名、人獣共通感染症リサーチセンター：9名、北方生物圏フィールド科学センター：1名、北極域研究センター：7名)

編集メモ

●新緑が輝き，日に日に暖かく感じられるようになりました。キャンパス内でも様々な花が咲き，彩りが美しい季節となります。自然が多く残る本学キャンパスでは，動物たちや植物を写真におさめる観光客や地域の皆さんが多くいらっしゃいます。様々なキャンパス風景とともに，新たな本学の魅力をたくさん見つけてくだされば嬉しい限りです。

●総合博物館では「ミュージアムショップぼとろ」が4月28日（土）にグランドオープンしました。北大生が企画し商品化されたグッズなどが取り揃えられており，連日多くの来訪者で賑わっています。この機会に博物館へお立ち寄りいただき，様々な展示をご覧になってみてはいかがでしょうか。皆様のご来館をお待ちしています。



2016.5.15 丸瀬布森林公園いこいの森（遠軽町）

北の鉄道風景 62 エゾヤマザクラ

日本人にとって最も馴染み深い桜はソメイヨシノであって、この品種は日本の桜の8割を占めているという。しかし、寒冷な気候の北海道では、ソメイヨシノよりも寒さに強いエゾヤマザクラの方が代表的な桜となっている。ソメイヨシノは花が散ってから葉が出てくるのに対して、エゾヤマザクラは開花と同時に葉が出てくるという特徴をもつ。このため、開花後に見頃となる期間が比較的短くなってしま

う。写真は丸瀬布森林公園いこいの森で動態保存されている森林鉄道蒸気機関車・雨宮21号である。同園を1周する軌道の一部はエゾヤマザクラの並木の中を通過している。この写真を撮影した2016年は、雨宮21号が運行される週末と、軌道脇のエゾヤマザクラの見頃がタイミングよく一致した。

情報科学研究科 山本 学

北大時報 ⑤ No.770 平成30年5月発行

北海道大学総務企画部広報課 〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目

TEL：(011) 706-2610 / FAX：(011) 706-2092 / E-mail：kouhou@jimuhokudai.ac.jp

北大時報はインターネットでもご覧いただけます。 <https://www.hokudai.ac.jp/pr/publications/jihou.html>